

注意喚起！

腹部ペースメーカーのタブレットによる電磁干渉 (磁石による強制ペーシング)；腹部電池部分からこぶし一個分離して、タブレットを操作するよう指導ください。

ペースメーカー腹部植込み小児で、タブレット（タブレット端末・タブレットPC）内臓磁石による強制ペーシング (マグネットレスポンス)の報告がありました*。腹部でのタブレット操作が原因で、胸部にデバイス植込みがされている一般成人例では注意されていなかった事項です。マグネットレスポンスが記録される機種の出現により発見され、これまで気づかれていなかった事象と推測されます。

マグネットレスポンスによる強制ペーシングは、Spike on Tによる不整脈誘発と、頻回作動による電池消耗のリスクがあります。ICDにおいては、マグネットが接触している間、強制ペーシングははおりませんが、頻拍の検出・治療が停止する機種が多く、多くはアラート音が鳴りますが、鳴らない機種もございます。

複雑成人先天性心疾患患者様の植込み型心臓電気デバイス植込み例の1/3が心外膜リードを使用しており、その多くは腹部に電池が留置されています。上記のタブレット（およびノート型パソコン）における電磁干渉は、そのような患者様にも想定される事態です。公の注意喚起内容は検討中ですが、

**まずは患者様に腹部電池部分からこぶし一個分離して、
タブレットを操作するよう指導ください。**

*本事例の報告は日本不整脈心電学会雑誌「心電図」で近々掲載予定です。

